

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(2)ジョホール州における終戦50年後のインタビューより

著者	吉村 真子
出版者	法政大学社会学部学会
雑誌名	社会労働研究
巻	43
号	3-4
ページ	275-251
発行年	1997-03
URL	http://doi.org/10.15002/00018847

ザレハ : 3年です。

問 : エステートで働き始めたとき、仕事はどうでしたか？

ザレハ : 大変でした。(エステート内を) 歩くのが大変でしたし、
タッピングも大変でした。

問 : そのときの賃金はいくらでしたか？

ザレハ : 1日3ドルでしたから、1ヶ月で50ドルぐらいです。当時は、イギリスがもう入ってきていました。

問 : 何時に仕事を始めて、何時に終わりましたか？

ザレハ : 朝の6時に仕事を始めて、正午の12時までです。

問 : 学校には通いましたか？

ザレハ : 行ったことはありません。

問 : ご両親はどうでしたか？

ザレハ : 私の母は、学校に行ったことはありませんが、父は少しは
行ったようです。

〈戦争について〉

問 : 初めて、戦争が始まったのを知った時は、気持ちはどうでしたか？ それから、だれが知らせてきましたか？

ザレハ : 知りません。当時は、私はまだ小さかったので。まだ4歳
でしたから。

問 : ありがとうございました。

—インタビュー5 終わり—

問 : お生まれは、いつですか？
ザレハ : 1937年です。
問 : 現在、年齢はおいくつですか？
ザレハ : 58歳です。
問 : 生まれは、どこですか？
ザレハ : ここです。カンボン・グントンです。
問 : いつ仕事を始めて、そのときはおいくつでしたか？
ザレハ : 私が働きはじめたのは、1950年です。
問 : 日本軍政期には、どこに、だれと、住んでいたのですか？
ザレハ : ここに、私の母と住んでいました。
問 : ご兄弟は、何人ですか？
ザレハ : 5人です。男の子が3人で、女の子が2人です。

〈エステートでの仕事について〉

問 : 何の仕事をしたのですか？
ザレハ : ここと同じで、ゴムのタッピングです。
問 : エステートでの仕事を始めたのは、どうやってですか？
ザレハ : 当時は、生計が大変ではなかったもので、エステートでの仕事はそんなに長くはやっていません。
問 : 仕事にはどうやって応募しましたか？
ザレハ : 当時は、ゴムのタッパーをしない人はいなくて、それでだれでもその仕事をもらっていました。
問 : だれからですか？
ザレハ : 請負業者（コントラクター）からです。
問 : その請負業者は、中国人ですか？ マレー人ですか？
ザレハ : インド人です。でも請負業者にはマレー人もいましたし、中国人もいました。
問 : 全部でどれぐらい、エステートで働いていましたか？

問 : 全部で何年, エステートで働きましたか?

カミス : 3年です。1948年から1951年です。その後, 私は父親と
いっしょに自前の土地をもって, 自分たちでここにゴムの樹
を植えましたので。

問 : 仕事は何ですか?

カミス : ゴムのタッピングです。

問 : お連れ合い(妻)のお名前は何か?

カミス : Zaleha Hj Yusof です。

問 : ありがとうございます。

—インタビュー4 終わり—

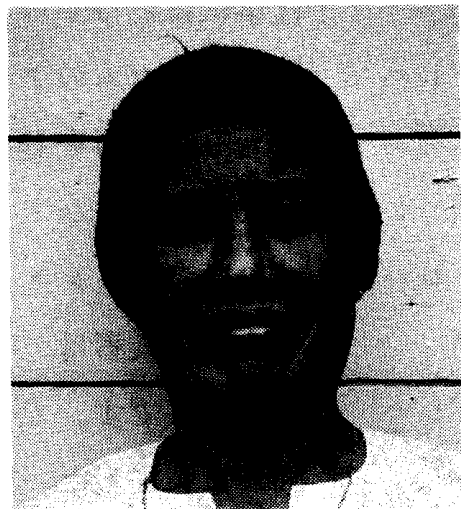
《インタビュー5》

Zaleha Hj Yusof 氏。53歳。1937年に、カンボン・グントン (Kg. Guntong) で生まれた。《インタビュー4》の Khamis bin Abdullah 氏の妻。日本軍政期のことは、当時は彼女はまだ幼かったため、よく覚えていない。1950年から3年間、トゥロック・スンガッ・エステートでタッパーとして働いた。読み書きはできない。現在、ガンボン・グントン・ヌナス (Kg. Guntong Nenas) に住んでいる (1995年8月10日、ザレハ氏の自宅でインタビュー)。

〈本人と家族について〉

問 : お名前は?

ザレハ : ザレハ・ビンティ・ユソフ
です。



Zaleha Hj Yusof

問 : 彼らは食料を配ったのですか？
カミス : しました。
問 : イギリス人が、このエステートを再開した時、仕事はどうなりましたか？
カミス : 戦争前と、同じです。
問 : そのときの賃金はいくらですか？
カミス : 1日90センです。
問 : だいたい、1ヶ月に賃金はいくらになりますか？
カミス : 1ヶ月で、だいたい15ドルだと思います。

〈現在の暮らしと子どもたち〉

問 : いつ結婚なさいましたか？
カミス : 1949年です。
問 : お連れ合い（妻）も、ここの出身ですか？
カミス : そうです。
問 : エステートでいっしょに働いたのですか？
カミス : 私といっしょにやっていました。
問 : お子さんは、現在、何人いらっしゃいますか？
カミス : 7人です。男の子が4人で、女の子が3人です。
問 : 彼らは、いまどこに住んでいますか？
カミス : あちらこちらで働いています。
問 : 何の仕事をしているのですか？
カミス : 教師になっているのもいれば、FELDAに入った者もいますし、事務員もしますし、ほかもあります。トゥロック・スングアやアサヒで働いている者もおります。
問 : お子さんが、エステートで働きたいとおっしゃったら、どう思われますか？
カミス : いいことですよ。

こと)が、ひとりいるのです。

問 : だれが殺されたのですか？

カミス : 「ライス」氏です。

問 : どういうスペル(綴り)でしょうか？

カミス : わかりません。ここの村の者は、「ライス」とだけ呼んでいましたから。

問 : なぜ、彼は殺されたのですか？

カミス : その頃、共産主義者は、マレーシアを制圧しようとして、イギリス人が戻ってくるのを望まなかったのです。それで、イギリス人を追い払おうとしたのです。

問 : トゥロック・スンガツの人たちに聞いたところでは、共産主義者の人たちは、戦争の終わった時に食料をくれたということですね？

カミス : そういうこともありました。でも、共産主義者は、ほかの人の物を取ってきているのであって、自分たちの物じゃないんです。昔は、私たちにも鶏や牛がありましたけれども、共産主義者は私たちの牛や鶏を取ってきて、絞めて分け与えたり、いろいろと食べたりしたのです。彼らが(もともと)持っていたものじゃないんです。

問 : では、彼らは、食べ物を配給しに、ここに来たのではないのですね？

カミス : 違います。

スタッフ : 共産主義者はほかの人の物を取って、その後で、ほかの人にあげていたんです。ロビン・フッドみたいなものですね。

カミス : そうですね。

問 : でも、この地域では、共産主義者がこなかったのですか？

カミス : 来ました。

カミス : イギリス政府が、コタ・ティンギからサイレン音を出して、知らせてきました。

問 : そのときの気持ちはどうでしたか？

カミス : うれしかったですね。でも、日本の貨幣（軍票）はもう使えなくなっていましたし、食料もないですし、まだ暮らしは大変でした。

問 : 当時、日本の貨幣（軍票）に対して、1（マレーシア）ドルいくらにあたりましたか？

カミス : 当時、イギリスの貨幣で1センが、日本の貨幣の1万ドルに相当しました。換えられないので、日本の貨幣は役に立ちませんでしたね。

問 : まだ、日本の「バナナ紙幣」（軍票）をとってありますか？

カミス : ありません。

問 : 日本軍政の頃の写真は、ありますか？

カミス : ありません。あの頃は、まだ私は子どもでしたから。

〈エステートの再開〉

問 : 当時のエステートはどうでしたか？

カミス : 閉鎖されました。

問 : いつ、全面的に再開されたのですか？

カミス : 1947年か、1948年です。

スタッフ : コミュニストやイギリスが入ってきた後ですね。

問 : だれが再開したのですか？

カミス : イギリス人です。

問 : そのイギリス人のマネージャーを、まだ覚えていますか？

カミス : そのイギリス人マネージャーは、ライス氏の前に来た人です。

スタッフ : 劇場で、 коммуニストに殺されたマネージャー（ライス氏の

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(2)

カミス : 知りません。たぶん、シャムに連れて行くために捕まえられ
そうになって抵抗したか、日本軍から逃げようとしたのか。
日本軍は逆らう人間はだれでも刺し殺していましたから。

問 : 日本軍のことは、村の人はどう話していましたか？

カミス : 話すような、勇気はないですよ。自分たちで、なんとかする
だけです。

問 : エステートから出ていって、ほかの土地に行った、エステ
ートの人もいましたか？

カミス : 大勢いました。自分の村(故郷)がある人はだれでも、村に
帰って、自分の村のない人は、エステートの中に残っていた
のですよ。日本軍が来たときには、逃げて、森に入ったので
す。日本(軍)がいなくなったら、みんな、戻るのです。

問 : 当時は、電気はありましたか？

カミス : 当時は、パーム油のランプです。

問 : 水はどこからですか？

カミス : 井戸水か、川の水です。

問 : その水は、飲めたのですか？

カミス : 飲めます。当時は、死なんてなんでもありません。そんなも
んです。薬だってありません。何も無いのです。当時は、た
くさんの人が病気になりました。

問 : 当時は、どんな病気が深刻でしたか？

カミス : かいせんやおでき、はくせんといった皮ふの病気が大変でし
た。大勢の人が、薬がないために死にました。出産する女性
も、医薬品がなくて、たくさん死にました。

〈終戦〉

問 : 戦争が終わったのは、どうやって知りましたか？ 誰が知ら
せてきましたか？

- カミス : そうです。みんな、恐がっていました。
- 問 : 日本軍が残酷だと、どうやってみんなは知ったのですか？
- カミス : 日本（軍）が村に入ってきたのを見て、みんな、森に逃げ込んでいきました。
- 問 : そのときは、何を持って行きましたか？
- カミス : 何も持っていきません。身ひとつで、森に入るのです。食べ物だってありません。ときどき、日本（軍）が入ってくるのです。私たちは家がありましたし、タピオカとか、食べ物も家にはありました。でも、家に戻ったら、食べ物はもうなくなっていました。
- 問 : 当時、日本軍は、ここに中国人や коммуニストを探しに来るかもしれないと聞いたことはありましたか？
- カミス : はい。彼らは коммуニストを探しに来ました。
- 問 : エステートには中国人がいましたか？
- カミス : いました。
- 問 : 彼らの生活はどうでしたか？ 彼らは、逃げましたか？ それとも、そのまま住んでいましたか？
- カミス : 彼らは、みんな、逃げていました。中国人、インド人、マレー人、みんな逃げたんです。日本軍は人間と思っていませんから。もし（日本兵が）女の子に出会ったら、捕まえて、連れて行ってしまうのです。年寄りなら、何もしません。若い男性なら、シャム（タイ）やビルマに連れて行ってしまいます。だから、みんな、怖がって、逃げました。
- 問 : エステートの友達で、日本軍に殺された人はいましたか？
- カミス : いました。
- 問 : 中国人ですか？ マレー人ですか？
- カミス : マレー人もいますし、中国人だっています。
- 問 : 彼らは、どうして殺されたのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(2)

問 : いつですか？

カミス : 戦争が始まってすぐです。戦争が始まったときに、(エステートの)日本人たちは私たちみたいに逃げてしまいました。日本人のマネージャーでさえ、同じように恐かったのです。1941年に、イギリス軍が来て、その日本人のボスを連れてきました。その日本人のボスをここから外へつれていく命令があったのか、なかったのか知りませんが。

問 : 当時は、仕事はなかったのですか？

カミス : 自分でやっていくしかないのです。魚を捕まえたり、タピオカを植えたり。それぞれが、知恵を働かせて、生きていくために、食べ物を探していくしかないですよ。

問 : 日本軍がここに来る前に、お金は貯めていましたか？

カミス : お金なんて、ないですよ。当時は、日本がお金を出さないし、イギリスの金は使えないし、大変でしたよ。

〈日本軍政下の暮らし〉

問 : 日本軍政期は、食料は足りていましたか？

カミス : 全然、足りませんでしたよ。食料は、長い間、なかったですね。

問 : 食料はどうしていたのですか？

カミス : タピオカやさつまいもです。この地域は、稲を植えていないので、ほんの少しの米もなかったです。

問 : 日本軍がここに来たと聞いたときには、どう思いましたか？

カミス : みんな、日本軍を恐がっていました。当時は、日本軍は、非常に狂暴でしたから。日本(軍)が村に入って来たときは、人の鶏を取ったり、少女や女性を捕まえて連れていったりして。

問 : みんな、そう話していたのですか？

の後、コタ・ティンギからここにやってきたのです。日本軍が来ることをイギリス軍が知ったときには、彼らがコタ・ティンギの橋を爆撃して、日本軍がシンガポールに入らないようにしたのです。

問 : そのときは、気持ちはどうでしたか？

カミス : 大変でしたね。食べ物もないし、仕事だってないです。当時、私は12歳でした。

〈戦争開始後のエステート〉

問 : エステートは閉鎖されましたか？

カミス : 閉鎖されました。

問 : 閉鎖されたのは、いつですか？

カミス : 1941年です。当時、みんな、怖がっていました。爆弾が落とされ、みんな、恐くて、避難していました。シンガポールは、(爆撃が)花火のようでしたよ。イギリス軍が日本軍と戦ったときは、私たちはみんな、穴を掘って、穴の中に隠れていました。

問 : 当時の家はどこだったのですか？

カミス : エステートの中です。

問 : 当時は、だれと住んでいたのですか？

カミス : 母親といっしょです。

問 : エステートが閉鎖されていても、エステート内の家に住むことはできたのですか？

カミス : できました。

問 : でも、日本人(スタッフ)は日本に帰ってしまったでしょう？

カミス : そうです。みな帰ってしまい、イギリス人が進めていました。

- カミス : 日本人でした。
- 問 : その人の名前を覚えていますか？
- カミス : 「ナガノさん」です。もう一人は覚えていません。
- 問 : グントン・エステートには、日本人は何人いましたか？
- カミス : 3人ぐらいだと思います。その1人は、ここで店を開いた人です。
- 問 : その店は、何の店ですか？
- カミス : いろいろなものを売る店です。食べ物を売っていました。
- 問 : その日本人たちは、みな、男の人ですか？ それとも家族もいっしょでしたか？
- カミス : その日本人は3人とも、もう結婚していて、家族もいました。
- 問 : 家族は、みんな日本人ですか？
- カミス : みな、日本人です。
- 問 : 彼らは、マレー語を話せましたか？
- カミス : マレー語は上手に話せましたよ。

〈戦争の始まり〉

- 問 : (あなたが) 仕事を始めたのは、いくつのときですか
- カミス : 戦前は、まだ仕事を始めていませんでした。戦争が終わってから、仕事を始めたのです。
- 問 : いつ学校を終えたのですか？
- カミス : 1941年です。日本との戦争中に、私は日本学校にも2ヶ月入りました。
- 問 : どれぐらいの期間ですか？
- カミス : 2ヶ月です。
- 問 : 戦争が始まったのは、どうやって知りましたか？
- カミス : 日本(軍)がクランタンから来たのを知っていましたし、そ

カミス : 賃金は、1ヶ月9ドルか10ドルでした。雨の日や休みをとったりしたら、働くのは、(1ヶ月のうち)20日ぐらいですね。

問 : エステートで働きはじめる前に、エステートに働いている友達はいましたか？

カミス : いました。

問 : ふつう、何時に仕事を始めて、何時に仕事を終わりましたか？

カミス : 朝の7時から正午の12時までです。

問 : 仕事はどうでしたか？ きつかったですか？

カミス : そんなことはないです。ゴムのタッピング自体は、そんなにきつい仕事じゃありません。

問 : 当時のグントン・エステートでは、働いている人は何人いましたか？

カミス : 昔は、大勢いました。マンドーが2人いましたから、100人ぐらいが働いていたと思います。

問 : だいたい、どの民族がいちばん多かったですか？ マレー人ですか？ 中国人ですか？

カミス : いちばん多かったのは、マレー人です。

問 : その比率は、何パーセントですか？

カミス : マレー人がだいたい70パーセントで、中国人とインド人が30パーセント、といったところでしょう。

問 : エステートは、だいたい何エーカーでしたか？

カミス : 2000エーカー以上あったと思います。

問 : 全部、ゴムですか？

カミス : そうです。全部がゴムでした。

〈グントン・エステートの日本人〉

問 : 当時のマネージャーは、日本人でしたか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(2)

- カミス : 私の名前は、カミスです。
- 問 : 現在のお歳は、いくつですか？
- カミス : 65歳になります。
- 問 : 何年のお生まれですか？
- カミス : 1930年です。
- 問 : どこで生まれたのですか？
- カミス : ここで生まれました。カンボン・グントン・ヌナス (Kg. Guntong Nenas) です。
- 問 : いつ、学校で勉強しましたか？
- カミス : 私は、当時、1937年から1941年まで、学校に通いました。
- 問 : どこの学校で勉強したのですか？
- カミス : ここです。マレー小学校で、4年間、勉強しました。
- 問 : 当時、ご両親は何の仕事をしていましたか？
- カミス : エステートで、ゴムのタッピングをしていました。
- 問 : ご兄弟は、何人いますか？
- カミス : 5人います。
- 問 : 女の方は何人で、男の方は何人ですか？
- カミス : 4人が女で、1人が男です。
- 問 : 女の方は、どこで働いていましたか？
- カミス : エステートで働いていました。
- 問 : どのエステートですか？
- カミス : ここですよ。グントン・エステートです。

〈エステートでの仕事について〉

- 問 : あなたは、エステートでの仕事はどうやって始めたのですか？
- カミス : 私は、事務員に仕事を求めました。
- 問 : 給料は、1ヶ月いくらで、1ヶ月には何日働きましたか？

問 : お子さんたちが、もし最初に、エステートで働きたいと言ったら、お気持ちはどうですか？

サバイア : かまいません。うれしいですよ。

問 : あなたは、エステートでは、何年、働きましたか？

サバイア : 全部で9年です。

問 : あなたがエステートで働いていたときは、お子さんたちは手伝ったのですか？

サバイア : 手伝ってくれました。

問 : ありがとうございます。

—インタビュー 3 終わり—

《インタビュー 4》

Khamis bin Abdullah 氏。65 歳。1930 年に、トゥロック・スングアのカンボン・グントン・ヌナス (Kg. Guntong Nenas) に生まれる。両親は2人とも、グントン・エステートでタッパーとして働き、本人も1948年から1951年までグントン・エステートで、ゴムのタッパーとして働いていた。現在、カンボン・グントン・ヌナスに住み、家の周囲にゴムの樹を10エーカーほど植えて、ゴムのタッピングをして、暮らしている。同村の最長老でもある(1995年8月10日、カミス氏の自宅でインタビュー)。



〈本人と家族について〉

問 : お名前は、何ですか？

Khamis bin Abdullah

問 : 何の仕事をしていらっしゃいますか？

サバイア : 普通の勤めです。

問 : 村に住んでいる人は、何のお仕事ですか？

サバイア : エステートで働いて、ゴムのタッピングをしています。

問 : ほかのお子さんは？

サバイア : 工場勤めや、トラック運転手や、ほかにもいろいろですよ。

問 : 学校では勉強しましたか？

サバイア : 私は、学校には行ったことがありません。

問 : 読むことはできますか？

サバイア : 少しはできます。でも、書くことはできません。

問 : ご両親はどうでしたか？

サバイア : 彼らは、学校には行ったことがありません。

問 : あなたのお子さんはどうですか？ 学校には、何年、通いましたか？

サバイア : みな、6年生まで終えています。

問 : さらに上の学校に行った人は、いませんか？

サバイア : いません。当時は、近所に上の学校はなかったですし、遠くでは無理ですから。

スタッフ : 当時は、ここでは交通の便が悪かったですから。もし中等学校に行きたかったら、コタ・ティンギかどこかに行かなければならなかったですね。ここの唯一の中等学校が開かれたのは、1970年のことです。

問 : あなたのお子さんが、エステートで働くか、どこかよそに仕事を求めて行くか、ということについては、どう考えますか？

サバイア : 昔はエステートで仕事をしたでしょうが、私の子どもは、いまはもうほかの仕事を得ていますから。ここの賃金は十分ではないですから。

たか？

サバイア：戦後は、賃金は1日3リングギッでした。コントラクト（請け負い）で働いていました。

問：1ヶ月で給料は全部でいくらですか？

サバイア：わかりません。

問：あなた自身は、まだバナナ紙幣（日本軍票）を持っていますか？

サバイア：ありません。もうなくしてしまいました。

〈現在の暮らしと子どもたち〉

問：結婚したのは、いくつですか？

サバイア：日本の降伏後です。

問：あなたの夫の仕事は何ですか？

サバイア：（夫も）タッパーです。

問：お連れ合い（夫）は、どこの出身ですか？

サバイア：（インドネシアの）ジャワの出身です。

問：現在、お子さんは何人いらっしゃいますか？

サバイア：私の子どもは、17人です。

問：一番大きなお子さんは、歳はおいくつですか？

サバイア：50歳弱だと思いますが、もうすでに亡くなっています。

問：末のお子さんは？

サバイア：年齢は、26歳です。

問：女のお子さんは何人で、男のお子さんは何人ですか？

サバイア：女の子が9人で、男の子は8人です。でも、6人が亡くなって、11人しか残っていません。

問：お子さんたちは、現在、どこに住んでいますか？

サバイア：あちらこちらの場所に行っていますが、村にいる者もおります。

問 : あなた自身が、戦争が終わったのを聞いたのは、どういうふう
にですか？

サバイア : 人が知らせてくれました。

問 : だれが知らせてくれたのですか？

サバイア : 私の祖父です。でも、日本がすでに降伏したのに、米を探し
たくとも大変でした。

問 : それはいつのことですか？

問 : コミュニストの時期ですよ。

問 : 終戦を知って、どう思いましたか？

サバイア : うれしかったですね。

問 : 戦争がすでに終わってから、いつ働きはじめましたか？

サバイア : 戦争後に、タッピングをして働きました。

問 : マネージャーはだれでしたか？

サバイア : イギリス人です。

問 : マネージャーの名前は、覚えていますか？

サバイア : わかりません。

問 : いつ、働きはじめましたか？

サバイア : 覚えていません。でも、私はトゥロック・スガッに住んで
いて、自分で仕事をしました。

問 : 何の仕事ですか？

サバイア : タピオカやさつまいもを掘る仕事です。その後、ほかの仕事
を探していきました。

問 : どれぐらい、タピオカをもらえましたか？

サバイア : タピオカからさつまいもまで掘るのを手伝いました。売る時
に、小さいものなんかもあって、そんなサイズのは、私にく
れました。それで、それを自分で売って、少しのお金を手に
入れるのです。

問 : 戦争がもう終わって、仕事を始めて、給料はいつももらいまし

ク・スンガッだけです。ほかの場所では、私はわかりません。

〈戦争後のエステート〉

問 : 戦争の前と後で、支払われる賃金はどうでしたか？

サバイア : 同じですよ。月末に、支払われていました。

問 : ひと月に1回ですか？

サバイア : そうです。

問 : 当時のボスは、日本人でしたか？

サバイア : はい。日本人です。戦争後に、トゥロック・スンガッで撃たれた、例のボスですよ。当時、私は、ちょうど、ゴムの実を集めていたところでした。彼は、ナンヨー、アサヒ、トゥロック・スンガッの自分のエステートの様子を見るために来ていました。日本人が2人、ここに来て、1人はトイレに入って、もう1人はオフィスにいました。 коммуニストが森から来て、私に静かにするように警告しました。それで、私は黙って、裏からいっしょに入っていました。オフィスに入っていきなり、 коммуニストはオフィスにいた日本人のボスと事務員を一時に撃ちました。このマレー人が、その日本人の死体を埋めましたのです。

問 : その墓はわかりますか？

サバイア : 彼がどこに埋められているのかは、わかりません。

スタッフ : 戦争が終って、彼ら（日本人スタッフ）は戻ってきて、自分の持ち物を取り戻そうとしたのだと思います。それで、戦争後に、彼らは коммуニストに殺されてしまったのですね。

問 : ゴムの実を集めたのは、売るためですか？

サバイア : そうです。エステートは、ゴムをまた植え始めるために、ゴムの実を集めていました。

〈日本軍とエステート〉

問 : 日本占領期に、エステートに住んでいた人の中に、中国人はいましたか？

サバイア : 大勢、いました。

問 : 彼らの生活はどうでしたか？ おそらく、彼らは、日本軍がここに来るのを恐れていたのではないですか？

サバイア : (中国人は) どこにも行きませんでしたよ。エステートでは、日本(軍)は、酷いことはしませんでした。

問 : それならば、エステート内に住んでいた中国人は、隠れなかったのですか？

サバイア : 隠れませんでした。

問 : 逃げた人はいませんか？

サバイア : いません。

問 : 中国人は心配しなかったのですか？

サバイア : ええ。

問 : 当時、日本軍が、ジョホールのアちこちで、中国人に残酷なことをして、大勢を殺したことは、すでに聞いていましたか？

サバイア : それは知りません。私は、小さいときから68歳になるまで、ここに住んでいます。どこにも行ったことがないですから。

問 : 日本人のした酷いことについて、初めて聞いたのはいつですか？

サバイア : 聞いたことはありません。トゥロック・スンガッでは、なにも起こっていませんから。彼ら(日本人)は、よくしてくれました。子どもにさえもよくしてくれました。マレー語が上手にしゃべれる人もいましたよ。みんなじゃないですけどね。でも、それ(日本人がよくしてくれたの)はトゥロッ

問 : 日本軍がここに来てから、暮らしはどうでしたか？

サバイア : 大変でしたよ、食べていくために、タピオカやさつま芋を植えました。

問 : 日本占領期は、どんなお金を使いましたか？

サバイア : 日本のお金を使いました。タピオカ1カティが、50ドルです。日本占領期は、タピオカを植える仕事をしました。日本軍政期の私の生活は、本当に苦しめられましたよ。

問 : 日本軍がここに来るまでに、貯金がありましたか？

サバイア : ありませんでした。

問 : 当時の歳は、いくつでしたか？

サバイア : 11歳ぐらいです。

問 : 当時の生活は大変でしたか？

サバイア : 大変でしたよ。お金もなければ、食べ物も、着る物もなかったです。

問 : 家は、エステートの宿舎ですか？

サバイア : そうです。エステートの宿舎です。

問 : 当時のエステートで、電気はありましたか？

サバイア : ありません。灯かりは、油のランプを使っていました。

問 : 当時は、水道はありましたか？

サバイア : ありません。

問 : 水はどこからもってきたのですか？

サバイア : 飲み水は井戸からですが、身体を洗うのには川に行きました。

問 : エステートでは、そのタピオカを植えるのに、給料がついたのですか？

サバイア : いいえ。自分たちで食べるために植えただけですよ。

問 : 当時の気持ちはどうでしたか？

サバイア : 当時は、とてもこわくて、熱が出るぐらいでした。

問 : 当時は、どこに住んでいたのですか？

サバイア : トゥロック・スンガツのエステートに、母親といっしょに住んでいました(父親はインドネシアにいた)。

問 : お母さまは、爆撃についてどう話していましたか？

サバイア : 私の母は、マンドーとそのことを話していました。マンドーが、戦争がすでに始まったことを知らせてくれたのです。全員、仕事はしていませんでした。

問 : あなたの家は、ほかの人の家に近かったのですか？

サバイア : 近かったです。

問 : 近隣の人たちは、戦争のことをどんなふうに話していましたか？

サバイア : 同じですよ。みんな、爆撃の音を聞いていましたから。

〈戦争中のエステート〉

問 : 日本軍が来たときは、エステートは閉鎖されましたか？

サバイア : はい。でも、私は、エステートで事務のスタッフのためにタピオカ(芋)を植える仕事を得ました。

問 : 日本人はどこに行きましたか？

サバイア : 戦争が始まってしまってから、彼らはいませんでした。おそらく、帰ってしまっていたのでしょう。

問 : 日本軍がトゥロック・スンガツに来たときには、エステートで働くことはできましたか？

サバイア : できました。

問 : ゴムのタッピングですか？

サバイア : いいえ。エステートの中でタピオカを植えて、そのタピオカを売るんですよ。日本軍は邪魔をしませんでした。

問 : どこに、だれと住んでいましたか？

サバイア : トゥロック・スングッに、自分の家族といっしょに住んでいました。

問 : 当時は、(同エステートに) 日本人は全員で何人いましたか？

サバイア : 5人だと思います。

問 : その人たちの名前は覚えていますか？

サバイア : ヨシハラさんしかわかりません。彼とは親しかったので。他の人は知りません。

問 : そのヨシハラさんは、ここで何の仕事をしていたのですか？

サバイア : エステートのマネージャーです。

問 : 当時、(エステートの) 樹は、全部ゴムでしたか？

サバイア : ゴムの樹だけです。

問 : 当時、グントン (日本語の「群島」) ・エステートで働いていた人は、全部で何人でしたか？

サバイア : グントン・エステートはわかりませんが、トゥロック・スングッ・エステートは大勢の人がいました。

〈戦争の始まり〉

問 : 戦争が始まったのは、どうやって知りましたか？

サバイア : 私の母とタッピングに行こうとしていたときに、シンガポールへの爆撃の音を聞きました。

問 : 何時でしたか？

サバイア : 朝の5時半です。

問 : そのときは、ゴムのタッピングに行くところだったのですか？

サバイア : そうです。でも、その後、こわかったので、行きませんでしたよ。

〈エステートの労働者〉

問 : トウロック・スンガッに移ってきたときには、もう戦争でしたか？

サバイア : 移ってきたときには、まだ戦争ではありませんでした。

問 : エステートでは、マレー人、中国人、インド人の比率は、それぞれ何パーセントでしたか？

サバイア : マレー人と中国人が多くて、インド人は少なかったですね。

問 : エステートでは、どの民族がよりたくさん、働きましたか？

サバイア : 働いている人は、みんな勤勉でしたし、物だって安かったです。私自身、65歳になって仕事を辞めたばかりです。

問 : 熱心に働いて、賃金はどうでしたか？

サバイア : 同じです。1日65センです。

問 : でも、もし熱心に働かなかったら、賃金はどうですか？

サバイア : 賃金は少なくなりますよ。

問 : エステートでの仕事には、どうやって応募しましたか？

サバイア : 私はマンドーに仕事を頼みました。

問 : そのマンドーは、マレー人ですか？

サバイア : マレー人ですが、当時、マンドーになったマレー人は多くなかったです。インド人が多かったですね。

〈エステートの日本人〉

問 : 当時のエステートは、日本人の所有でしたか？

サバイア : そうです。

問 : タウケ（ボス）を覚えていますか？

サバイア : 当時は、ヨシハラさんです。彼は、私にはとてもよくしてくれました。

問 : ヨシハラさんは、ここにどれぐらいいましたか？

サバイア : 長くいましたよ。

問 : トゥロック・スンガッ・エステートで働きはじめたのは、いつですか？

サバイア : 母親を手伝っていただけです。私が8歳のときです。

問 : ご両親は、どこで働いていましたか？

サバイア : ゴムのタッパーです。私は手助けだけです。

問 : ご両親は、どちらの生まれですか？

サバイア : 私の両親は、(インドネシアの) ボヤン島の生まれです。私は、ここで生まれました。

問 : 彼らは、いつマレーシアに来たのですか？

サバイア : 知りません。

〈エステートでの仕事〉

問 : (ご両親が) トゥロック・スンガッ・エステートで働きはじめたのは、なぜですか？

サバイア : 生活が苦しかったからです。そのころ、私の家族には村がありませんでした。それで、エステートで暮らして、そのエステートで働いたんですよ。

問 : 当時は、ほかの仕事はなかったのですか？

サバイア : ありません。タッピングだけです。

問 : 当時の仕事はどうでしたか？ 何時に仕事を始めて、何時に仕事を終えましたか？

サバイア : 朝の6時半に仕事を始めて、正午の12時に仕事を終わりました。

問 : 賃金は、日給でだいたいいくらでしたか？

サバイア : (1日) 65 センです。

問 : 男性の賃金も同じでしたか？

サバイア : 同じです。

日本軍政下のマラヤの エステートの村民 (2)

——ジョホール州における終戦 50 年後の
インタビューより——

吉 村 真 子

《インタビュー 3》

Sabaiah bt Darbi 氏。68 歳。1927 (?) 年にトゥロック・スンガッで生まれた。両親とも、トゥロック・スンガッ・エステートでゴムのタッパーとして働いていた。8 歳の頃から、母親のタッピングの仕事を手伝った。読み書きはできない。現在、スンガイ・スンビラン (Sg. Sembilang) のカンボン・バル (Kg. Baru) に住んでいる (1995 年 8 月 10 日、サバイア氏の自宅でインタビュー)。

〈本人と家族について〉

問 : お名前は?

サバイア : 私の名前は、サバイアです。

問 : 何年のお生まれですか?

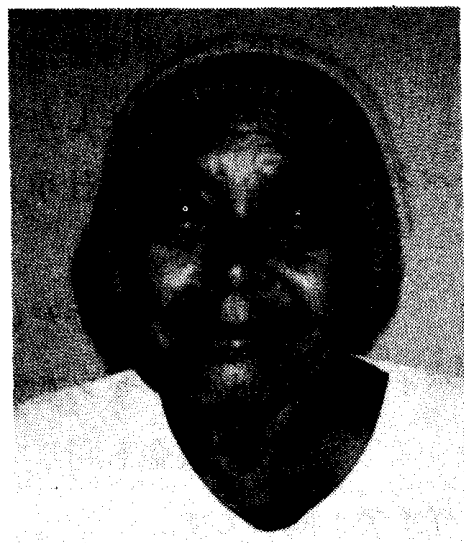
サバイア : わかりません。

問 : お歳は、おいくつですか?

サバイア : 68 歳です。

問 : どこで、生まれましたか?

サバイア : カンボン・グントン・サツ (第 1「群島」村) です。



Sabaiah binti Darbi